

W3C の概要・国際標準仕様策定プロセス

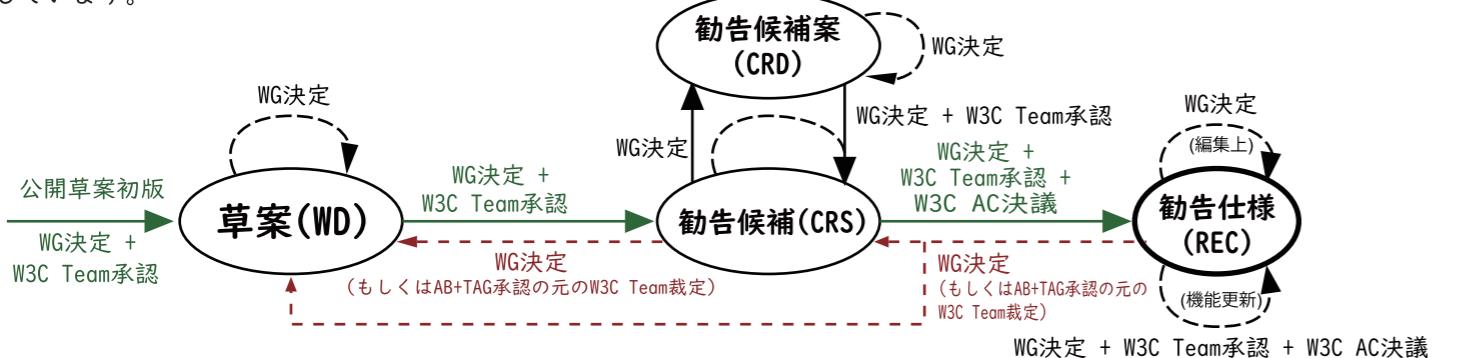
長年にわたり、W3Cは進化するWeb技術やその活用に対応するため、漸進的に変化してきました。会員主導のコンソーシアムとして、W3C会員が過半数を占める理事会により策定される運営と戦略的方向性の元、ガバナンスを全面に打ち出し、明確な報告、継続的かつ高い透明性を持つグローバル協力を基本に活動しています。W3C会員による選挙で選出される、W3C運営顧問である運営諮問委員会(AB)と技術諮問委員会(TAG)が設置されており、2年任期でベンダ中立な参加が求められます。会員各組織代表が参加するW3C会員各組織代表総会を年に2回行い、W3C全体の運営について議論しています。この内の1回は、W3C技術全般について議論するW3C年次技術者総会として開催されます。

Web技術の具体的な仕様や指針の策定はワーキンググループ(WG)で行われており、W3C会員からの参加者、W3C技術スタッフ(Team Contact)と必要に応じて会員外から招聘される招聘専門家(IE)によって構成されます。活動の領域、対象とする仕様書や意思決定方法はWG設置趣意書に規定されており、W3C会員投票による承認を受けます。WG以外には、特定技術領域についての全般的議論を目的とするインタレストグループ(IG)、ビジネス領域のユースケース議論を行うビジネスグループ(BG)、広く一般から意見聴取しインキュベーションを行うコミュニティグループ(CG)も設置されます。

W3C技術文書には勧告仕様、技術的なアイデアや背景をまとめたグループノート、勧告仕様に紐づリスト項目を登録するレジストリ、新たな技術仕様策定に向けた会員提案の分類があります。

仕様策定プロセス

勧告仕様の策定作業では、W3Cプロセスドキュメントに規定された各段階やレビュー要件を経ます。レビューには各領域の専門家が所属する水平グループによる技術的レビュー、会員全体によるレビューが設定され、また加えてリエゾン関係にある様々な標準化団体や、一般の開発者コミュニティに対してもレビューを依頼し、会員からの意見同様に対応しています。



草案(WD)は公開草案初版(FPWD)から始まる正式な勧告仕様策定作業の開始点で、この段階の全ての仕様が勧告になるとは限りません。勧告候補(CR)になるまでに、草案には水平グループによる技術レビューが要求され、指摘点を全て解決する必要があります。CRの段階において仕様が要件を満たしているかの確認、広く一般に実装を呼びかけての実装と相互運用試験を行います。各機能について最低2つ以上の実装が確認されるなど一定の条件を満たした後、W3C会員全体会員によるレビューを経て仕様書は勧告(REC)として公開されます。

水平レビュー(HR)

Web技術全体へ指針を出しているTAGに加え、アクセシビリティ(ally)、国際化(i18n)、セキュリティ、プライバシーの4領域について専門家により構成される水平グループがHRを行います。この活動はW3Cで開発されている仕様に限らず、関連分野で活動するWHATWGやIETFなどの標準化団体の仕様への参画も行っています。また、これらのグループは各分野においてWeb仕様開発者向け開発ガイドラインや仕様書の自己レビュークリックリスト、また一般向けの解説も提示しています。

TAG (Technical Architecture Group)は、Web技術全体に関わる技術仕様に関与する技術顧問の役割を果たしており、Ethical Web Principles、Web Platform PrinciplesといったWeb全般の原則を文書にまとめ、また仕様レビューなどの議論での関連情報をTAG Findingsとして公開しています。

allyは、WCAGなどのアクセシビリティ基準を策定するグループと連携して活動しており、ビデオ通話などさまざまな技術領域特化のユーザ要求の取りまとめを行っています。

i18nは、ブラウザ上の文字や言語の取り扱いと表示に加え、全世界で地域により異なる表記が利用されるデータについてAPI仕様やデータ形式が正しく保持・処理できるかについても活動しています。また、地域依存の数値表記のレジストリ、文字や文字列の扱いの原則をまとめた文書、さまざまな言語の組版仕様の取りまとめを行っています。

プライバシーは、fingerprintingをメインにブラウザ上のユーザ情報の扱いにおいて最小限の共有となるように仕様を策定するために活動しています。また、次世代のブラウザにおける権限要求プロンプトなど将来に向けた議論も進めています。

セキュリティはプライバシーとともにfingerprintingの可能性のある技術領域を調査するとともに、AIなどを含めた新技術がWebに与える影響についての文書の取りまとめを行っています。



W3C - World Wide Web Consortium - はWeb技術の標準化と推進を目的とした会員制の国際的な産学官共同コンソーシアムです。会員主導のアプローチとグローバル組織との協力体制からなる両輪を基軸として、全世界にわたる会員によるグローバルな運営を目指しています。400近くの組織が会員として参加しており、日本からは30以上の組織が参加しています。W3C会員、W3Cチームスタッフ、加えて国際社会からの貢献を基盤とし、真のグローバル組織としてオープンなWebの標準技術の開発を継続していくことで、Webの推進という社会からの寄託と使命を守り続けます。

W3Cの主な活動は、技術仕様や指針を勧告として策定、標準化することです。業界標準として幅広く普及するXML、HTML、CSS、SVGなど、Webの核となる多くの技術はW3Cによって策定、標準化されました。また、次の命題を掲げてユニバーサルアクセスの実現に努めています。

- One Web -
- Leading the Web to its Full Potential -